

編 修 趣 意 書

(教育基本法との対照表)

※受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
27-8	高等学校	公 民	現代社会	1～3
※発行者の 番号・略称	※教科書の 記号・番号	※教 科 書 名		
7 実教	現社 315	最新現代社会 新訂版		

1. 編修の趣旨及び留意点

教科書の編修にあたっては、授業を通じて良識ある公民的資質の醸成が達成される内容となるように、とりわけ意識している。

教科書の構成は、生徒及び学校の多様な実態に照らし、比較的低学力の生徒であっても、基礎的な学習事項から理論的内容まで無理なく学べるようにしている。また、生徒が学習を通じて、現代社会において何が課題となっているか、諸課題をどのように解決していくかを考察できるように、具体的な主張の対立や多面的な考え方を取り上げた。

科目の特性や目的を重視しつつ、現代社会とそこに生きる人間に関する問題を、自らにつながるものとして認識できるように配慮した。また、現代社会が抱えている課題にも言及し、生徒の問題意識に訴えかけることで、社会に出てからもあらゆる機会に学習を続けていくことの意義を見出すことができるようにした。

2. 編修の基本方針

2条の目標を達成するため、次の通り編集した

- 幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養う観点から、本文記述に関連した最新の話題や動向を「時事」などのコラムとして設けた。また、第3編では、各テーマに対してより深い考察ができるように多角的な視点を提供した（第1号）。
- 自主及び自律の精神を養うため、抽象的な理論や制度への疑問を自ら解決できるようにわかりやすく解説するコラム「Q&A」を設けた。また、自主及び自律の精神や職業及び生活との関連を重視し、勤労を重んずる態度も養うために、キャリア意識や労働トラブルへの対処といった、社会に出てからも役立てることのできる知識を「Navi」コラムとして設けた（第2号）。
- 正義と責任や公共の精神に基づいて、主体的に社会の形成に参画しその発展に寄与する態度を養うために、生涯における青年期の意義を理解させるなかで代表的な思想家の言説などを紹介した（第3号）。
- 生命を尊び、自然を大切にし、環境の保全に寄与する態度を養うために、地球環境問題と国際的な取り組み、自然との共生についての記述を掲載した（第4号）。
- 伝統と文化を尊重し、我が国と郷土を愛する態度を涵養するため、日本の文化や先哲の言説を紹介した。また、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うために、日本の対外援助や国際交流についての記述を掲載した（第5号）。

3. 対照表

図書の構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所
前見返し	<ul style="list-style-type: none"> ・伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛する態度を養う観点から、日本の世界遺産を取り上げ、我が国の文化と貴重な自然について、理解できるようにした（第5号）。 	前見返し 3
第1部第1章	<ul style="list-style-type: none"> ・幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養う観点のほか、生命を尊び、自然を大切にし、環境の保全に寄与する態度を養う観点から、地球環境問題と国際的な取り組み、自然との共生についての記述を掲載した。また、とくに地球環境問題については特集ページを設け、それぞれの事例を世界地図と写真・資料などによって概観できるようにした（第1号、第4号）。 ・正義と責任、協力を重んずる観点から、環境問題解決に向けた各国の主張と対立を示した（第3号）。 ・我が国と郷土を愛する観点から、とくに日本における自然の保護と共生についての特集ページを設け、数々の事例を、地図と写真・資料などによって概観できるようにした（第5号）。 	<p>p. 6～15</p> <p>p. 12～13</p> <p>p. 14～15</p>
第1部第2章	<ul style="list-style-type: none"> ・環境の保全に寄与する態度を養う観点から、エネルギーの開発と利用について記述した（第4号）。 ・幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養う観点から、とくに石油・天然ガスの動向についての特集ページを設け、エネルギーの需要・供給と外交との関係について、世界地図と写真・資料などによって概観できるようにした（第1号）。 ・幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養う観点のほか、生命を尊び、自然を大切にし、環境保全に寄与する態度を養う観点から、原子力発電と再生可能エネルギーについての特集ページを設け、それぞれの現状と課題について、世界地図と写真・資料などによって概観できるようにした（第1号、第4号）。 ・正義と責任、自他の敬愛と協力を重んずる観点から、人口問題と食料・水資源については本節のほかにも特集ページも設け、飢餓の状況や日本との関係について、世界地図と写真・資料などによって概観できるようにした（第3号）。 	<p>p. 16～23</p> <p>p. 18～19</p> <p>p. 22～23</p> <p>p. 24～27</p>
第1部第3章	<ul style="list-style-type: none"> ・幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養う観点から、生命倫理・情報倫理それぞれの現状と課題について記述した（第1号）。 ・正義と責任、協力を重んずる観点から、とくに臓器移植について深く考察し、公正とは何か考えさせるようにした。（第3号）。 ・豊かな情操と道徳心を培う観点から、情報化社会における問題点をイラストやコラムで紹介し、生徒の注意を喚起できるように工夫した。（第1号）。 	<p>p. 28～34</p> <p>p. 29</p> <p>p. 33～34</p>

<p>第2部1 第1章</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養い、豊かな情操と道徳心を培う観点から、青年期における自己形成の過程を記述した（第1号）。 ・職業及び生活との関連を重視し、勤労を重んずる態度を養う観点、さらに主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養う観点から、職業生活と社会参加について記述した。とくに職業観をイメージしやすくするため、キャリアデザインについてのコラムを設けて詳述した（第2号、第3号）。 	<p>p. 36～41</p> <p>p. 42～45</p>
<p>第2部1 第2章</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養い、豊かな情操と道徳心を養う観点から、さらに正義と責任、自他の敬愛と協力を重んずる観点から、源流思想をはじめさまざまな思想家の言説を記述した。また、とくに愛や正義については、自ら疑問を解決できるようにわかりやすく解説したコラムを設けた（第1号、第2号、第3号）。 	<p>p. 46～61</p>
<p>第2部1 第3章</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養い、豊かな情操と道徳心を培う観点のほか、伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに他国を尊重する観点から、日本人の伝統的な自然観や宗教観、道徳観の形成、さらに西洋思想の受容と展開について記述した（第1号、第5号）。 	<p>p. 62～65</p>
<p>第2部2 第1章</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養う観点から、民主政治の成り立ちについて記述した。また、とくに立憲主義について詳述した（第1号）。 ・豊かな情操と道徳心を培い、正義と責任、自他の敬愛と協力を重んずるとともに、公共の福祉の精神を涵養させる観点から、とくに法の意義と役割について詳述した。また、自ら疑問を解決できるようにわかりやすく解説したコラムを設けた（第1号、第3号）。 	<p>p. 66～75 p. 69, 73</p> <p>p. 69～71</p>
<p>第2部2 第2章</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養う観点から、大日本帝国憲法を起点として、日本国憲法の成立を取り扱い、我が国に立憲主義が定着していく過程と、日本国憲法の基本原理を記述した（第1号）。 ・男女の平等、自他の敬愛と協力を重んずるとともに、公共の精神を涵養する観点から、日本国憲法の定める基本的人権について記述した（第3号）。 ・幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養い、豊かな情操と道徳心を培う観点から、表現の自由や平等権・生存権の保障、公共の福祉について、自ら疑問を解決できるようにわかりやすく解説したコラムを設けた（第1号、第2号）。 ・他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養う観点から、平和主義の理念とこんにちに至る我が国の歩みを記述した（第5号）。 	<p>p. 76～79</p> <p>p. 80～89</p> <p>p. 80, 82 84, 89</p> <p>p. 90～93</p>

<p>第2部2 第3章</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養う観点から、我が国の統治機構について記述した（第1号）。 ・正義と責任、自他の敬愛と協力を重んずる観点や、今後裁判員に選出されたときの参考に資するよう、司法の役割や裁判の流れなどを記述した（第1号、第3号）。 ・個人の価値の尊重や自主及び自律の精神を養う観点から、選挙制度と投票行動の意義について扱った。とくに、選挙権年齢の引き下げが検討されていることも踏まえて、若年層が選挙に参加する意義については、コラムでとくに詳述した（第2号）。 	<p>p. 94～103</p> <p>p. 98～101</p> <p>p. 106～109</p>
<p>第2部3 第1章</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養う観点から、経済活動の意義と経済思想の変遷、金融・財政など、経済理論について十分に記述した。また、とくに国債累積問題については特集ページを設け、現状と課題を深く考察しながら、世代間の公正も踏まえた租税負担について思考できるように工夫した（第1号）。 ・個人の能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養う観点から、起業に関するイメージをもたせるコラムを設けた（第2号）。 ・自主及び自律の精神を養う観点から、需給曲線・供給曲線のシフトやGDPの計算といった理論について、自ら疑問を解決できるようにわかりやすく解説したコラムを設けた（第2号）。 	<p>p. 110～133</p> <p>p. 121</p> <p>p. 111, 115 116, 120 など</p>
<p>第2部3 第2章</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養う観点から、中小企業・農業、労働問題、社会保障問題など、日本経済の特質と国民生活について十分に記述した。また、とくに社会保障制度について詳述しており、福祉と費用負担のバランスを考察・思考できるように工夫した（第1号）。 ・道徳心を培うとともに、自主及び自律の精神を養う観点から、消費者問題について記述した。また、クレジットカードや悪質商法などについてはコラムを設けた。さらに、悪質商法についてはイラストを交えて具体的な事例を紹介し、実際に巻き込まれてしまったときの解決の手がかりとなるように工夫した（第1号、第2号）。 ・生命を尊び、自然を大切に、環境の保全に寄与する態度を養うために、とくに四大公害以降の公害関係法整備、循環型社会の形成に向けてのあゆみを記述した（第4号）。 ・職業及び生活との関連を重視し、勤労を重んずる態度を養う観点から、労働問題と労働者の権利について詳述した。また、求人票の見方や労働問題については特集ページを設け、とくに労働問題についてはイラストを交えて具体的な事例を紹介し、実際に巻き込まれてしまったときの解決の手がかりとなるように工夫した（第2号）。 	<p>p. 134～161</p> <p>p. 144～147</p> <p>p. 148～149</p> <p>p. 150～157</p>

第2部4 第1章	<ul style="list-style-type: none"> 幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養う観点から、さらに他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養う観点から、国家間の政治における動向を記述した（第1号、第5号）。 	p. 168～183
第2部4 第1章 (つづき)	<ul style="list-style-type: none"> 生命を尊ぶ観点から、人種・民族問題、軍拡・軍縮問題についてはとくに詳述した（第4号）。 我が国と郷土を愛する観点から、戦後の日本外交と、PKO, ODA などによる貢献について具体的に記述した。また、我が国の領域についても地図を示して具体的に記述した（第5号）。 自他の敬愛と協力を重んずるとともに、公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養う観点から、事例として民間レベルでの国際交流や国際貢献活動を記述し、これらの問題を生徒の身近に感じてもらえるように配慮した（第3号）。 	p. 178～181 p. 182～183 p. 169 p. 182～183
第2部3 第2章	<ul style="list-style-type: none"> 幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養う観点から、グローバル化が進む国際経済の動向について記述した（第1号）。 他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養う観点から、我が国のODAによる貢献について記述した（第5号）。 自主及び自律の精神を養う観点から、比較生産費説や外国為替のしくみ、円高・円安の影響といった理論について、自ら疑問を解決できるようにわかりやすく解説したコラムを設けた（第2号）。 	p. 184～199 p. 199 p. 184, 186 187
第3部	<ul style="list-style-type: none"> 他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養う観点から、公正な国際貿易の実現についての課題を記述した（第5号）。 正義と責任、自他の敬愛と協力を重んずるとともに、公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画する観点から、持続可能な社会の実現についての課題を記述した（第3号）。 	p. 200 p. 201
後見返し	<ul style="list-style-type: none"> 自然を大切にし、環境の保全に寄与する態度、さらに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養う観点から、さまざまな指標を用いた世界地図を並べて、マクロ的視点から私たちの生きる世界を概観できるようにした。また、我が国と郷土について改めて思いを巡らすことができるように、世界地図のなかに日本の世界内順位を明示した（第4号、第5号）。 	後見返し 4, 5

4. 上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色

- 学校教育法第五十一条三項（社会について、広く深い理解と健全な批判力を養い、社会の発展に寄与する態度を養うこと）に則して、本文記述や課題例など教科書全体を通じて、生徒が物事を多面的に理解・解釈し検討を重ねていけるよう、とくに配慮した。

編 修 趣 意 書

(学習指導要領との対照表, 配当授業時数表)

※受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
27-8	高等学校	公 民	現代社会	1～3
※発行者の 番号・略称	※教科書の 記号・番号	※教 科 書 名		
7 実教	現社 315	最新現代社会 新訂版		

1. 編修上特に意を用いた点や特色

「現代社会」が公民科の基礎科目であり、1年次での履修が比較的多いことに鑑み、生徒が興味をもって学習しながら、基礎的・基本的な事項を無理なく学習できるように、以下の点について配慮した。

- 1) 重要用語や難解な専門用語については、注を付し、丁寧に解説した。
- 2) 学習内容が実生活・実社会に関連付けられるように、生徒にとって身近で具体的な話題を多く取り上げた。また、時事的な事例も「時事コラム」を中心に積極的に扱った。
- 3) 生徒が社会的事象に客観的かつ公正なものの見方や考え方ができるように、統計資料を豊富に掲載し、また理解の助けとなるように、適宜解説を付けた。
- 4) 第1部「わたしたちの生きる社会」では、「環境」に密接に関連する問題として、「資源・エネルギー」と「人口・食料」を扱い、現代社会における課題について理解を深められるようにした。
- 5) 日本の文化や伝統については、青年期分野においてその特色と学ぶことの意義に触れたほか、日本人としての自覚をより深められるよう、日本人の伝統的な自然観や倫理観、外来思想の受容と日本思想の変容などについても記述した。
- 6) 領土問題については国内外の事例を紹介したうえで、日本に関する問題の所在と平和的解決が模索されていることを、地図を交えて詳述した。
- 7) 「法」や「金融」、「消費者」に関する学習については、本文に加えて特集ページを設け、内容を充実させた。
- 8) 生徒が現代社会の諸課題に対し、幸福・正義・公正といった諸観点に基づいて主体的に考察し、また、生徒が学んだ知識を活用して自ら課題を発見し、その解決に向けて探求し、成果などを表現するための思考・判断・表現力を養うため、適宜「Study」を配した。
- 9) 社会に出てからも活用できるような知識・姿勢を、コラム「現代社会 Navi」で扱った。
- 10) 生徒が、課題を探究する学習をおこなうにあたって「学び方の習得」を図ることができるように、課題の設定から調査の方法、レポート作成など調査結果のまとめ方、発表やディベートの仕方などを特集するページを設けた。
- 11) グローバル化が進む現代社会において、日本国内の諸現象のみならず、世界全体の課題について探求できるように配慮した。
- 12) 公民的素質を養うために、全編を通じて生徒の問題意識に訴えかける文章を多用したほか、平和と人権を重視する視点を貫いた。

2. 対照表

図書の構成・内容	学習指導要領の内容	該当箇所	配当 時数
第1部 わたしたちの生きる社会			7
第1章 地球環境問題	(1)私たちの生きる社会	p. 6～15	
第2章 資源・エネルギー問題	(1)私たちの生きる社会	p. 16～27	
第3章 生命科学と情報技術の課題	(1)私たちの生きる社会	p. 28～34	
第2部 現代の社会と人間			51
1 青年期と自己の形成			11
第1章 自分らしく生きる	(2)現代社会と人間としての 在り方生き方 ア 青年期と自己の形成	p. 36～45	4
第2章 人間としてよく生きる	ウ 個人の尊重と法の支配	p. 46～61	5
第3章 日本人としての自覚	ア 青年期と自己の形成	p. 62～65	2
2 現代の民主政治と日本国憲法			17
第1章 現代国家と民主政治	イ 現代の民主政治と政治 参加の意義 ウ 個人の尊重と法の支配	p. 66～75	4
第2章 日本国憲法の基本的性格		p. 76～93	7
第3章 日本の政治機構と政治参加		p. 94～109	6
3 現代の経済社会と国民生活			15
第1章 現代の経済社会	エ 現代の経済社会と経済活 動の在り方	p. 110～133	8
第2章 日本経済の特質と国民生活	エ 現代の経済社会と経済活 動の在り方	p. 134～161	7
4 国際社会と人類の課題			8
第1章 国際政治の動向	オ 国際社会の動向と日本の 果たすべき役割	p. 168～183	4
第2章 国際経済の動向と国際協力	オ 国際社会の動向と日本の 果たすべき役割	p. 184～199	4
第3部 共に生きる社会をめざして	(3)共に生きる社会を目指し て	p. 200～201	2
		計	60